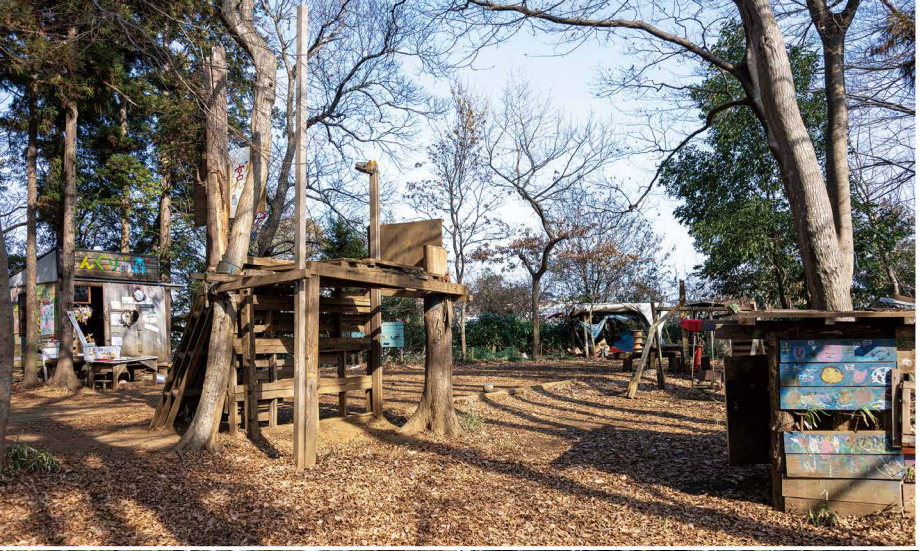
身近な自然の遊び場で子どもも大人も育ちあう

千葉県四街道市
特定非営利活動法人四街道プレーパークどんぐりの森

どんぐりの森



千葉県を走る総武本線の四街道駅から徒歩15分、住宅街の先にある「和良比どんぐりの森」に、「子どもたちのやりたい思い」を大切にした、子どもたちが自分の責任で自由に遊べるプレーパークがある。NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森(代表理事・小島成文さん)が運営し、毎週月曜・金曜および第1・第3土曜の10時~17時(季節で変わる)に開かれ、受付で名前を記入するだけで自由に遊ぶことができる。開催時間はプレイワーカーと呼ばれる遊び場スタッフが子どもたちを見守っている。

森の入口にある案内板には「ケガと弁当は自分持ち」と書かれている。プレーパークってどんなところだろう?森の小道を進むと子どもたちの歓声が聞こえてきた。泥遊びに夢中になったり、カラーボックスに乗って水たまりを漕ぎ進もうとする子など、思い思いの遊びに没頭している様子。時折喧嘩も起きるけど、プレイワーカーも母親たちもできるだけ見守っている。お昼近くになると、プレイワーカーで同会事務局長の関口笑子さんが焚火に鍋を乗せてみそ汁を作り始める。薪になる枝を拾い火にくべる子もいる。関口さんは「フキノトウが生えてたので天ぷらにしたよ」と声をかける。火を囲んで、森のなかで食事を共にするのは大切なひとときだ。

午後から訪れた小学生に「竪穴式住居を作っている」と聞いて覗いてみると、「おじさん、手伝って!」と柱を支えるように頼まれる。「必須アイテムは水。ボンドと同じだよ」と柱の土台を固めると「今日の作業はここまでかな」。

こうした子どもたちの遊びのそばにはいつも、「なかじ」の愛称で子どもたちに大人気のプレイワーカー、中島良介さんがいる。「自分自身が遊びが好きだからできる」と話す中島さんは、参加したボランティア活動をきっかけにプロのプレイワーカーとして10年以上活動する。この地域のおじいさんか

ら学んだという「くぎナイフ」づくりを子どもたちと行ったり、「自分は子どもたちの遊びのきっかけを作っている」と中島さんは自分の役割を話す。

どんぐりの森にプレーパークが生まれたのは20年以上前のこと。きっかけは、同会の初代代表・古川美之さんが、子どもが自然と関わる経験の必要性を感じたことからだった。地域の子育て世代と協力しながら、平成13年に「四街道にプレーパークを作る会」を設立。市内各所の公園でプレーパークを始め、平成16年からはご高齢の地主の代わりに森を整備することを条件に森を借り受け、現在の「どんぐりの森」を拠点にプレーパークを開始することになった。平成17年からは、千葉県・四街道市の「まっ白い広場（プレーパーク）づくりモデル事業」を受託し整備を進め、平成20年から現在に至るまで四街道市プレーパーク事業を受託し、市との協働事業としてプレーパークを実施している。現在は、どんぐりの森に加えて市内4か所で出張プレーパークも開催し、令和5年度では年間通じて延べ167日開催し7422人が参加する場となっている。このほか地域の里山の整備など、多岐にわたる活動を展開している。

活動を支えるプレイワーカーは現在10名ほど。元々プレーパークの利用者であり、自らの子育て経験を活かしながら関わるようになった人も多い。

プレーパークを支える一人、事務局長の関口さんがプレイワーカーになったきっかけは平成23年の東日本大震災の経験だったという。もともと子どもと遊ぶのがそれほど得意でなかったという関口さんは、宮城県名取市で被災し避難所生活を送るなかで、子どもの存在がどれほど周囲を勇気づけ明るくするかを実感したという。その後関口さんは実家のある千葉県内に戻り、子どもが自由にのびのびと遊べる環境を探し

ているうちに四街道のプレーパークに出会った。次第に運営に関わるようになり、現在は事務局長として同会を支えている。関口さんは「子どもと対等な立場で関わり、子どもの持つ力を信じることが大切だと思っている」と思いを語る。

森の中で過ごす1日も夕暮れが迫ってきた。中島さんは子どものプレーパークで使った道具を片付けると、今度は、夕方から開かれる、中高生・若者のフリースペース「ぷらっと」のため、電灯を飾り付け薪割をはじめる。

「ぷらっと」はもともと、どんぐりの森に夕方になると、中高生や若者たちが自然と集まり語り合うことが続いていたことから、定期的に開催してみんなが安心できる居場所にしようと始めたものだ。令和元年から週1回の開催を続けている。

「ぷらっと」は、やることは特に決まっていない。何もしなくてもいい。Wi-fiでネットを見てもいいし、調理をしてもいい。この日も夕方になると少しずつ中高生が集まり、シチューを作り始める子もいるなど自由な時間を過ごしていた。中学生の男の子は、小学生の頃にプレーパークに通っていて最近はご無沙汰していたが、「この場所が懐かしくなった」と再び訪れるようになったという。

「なるべく暇そうにしていると、若者たちが自然と話しかけてくる」と中島さん。学校のこと、友達のこと、将来のことなど、若者たちが話したいことは様々。話に耳を傾けながら相槌をうち、夜が更けるなか焚火を囲む時間が過ぎてゆく。

【連絡先】特定非営利活動法人四街道プレーパークどんぐりの森
千葉県四街道市和良比 282-29
TEL：090-6197-6735
メール：playparkdongurinomori@gmail.com